

2024 キッズ3×3フェスティバル 要項

- 1 趣 旨 子どもたちの健全な心身の育成を図るとともに、生涯スポーツの振興の基礎づくりに寄与することを目的とする。また、エンjoy層の子どもたちにゲームの展開や動きをスムーズにし、バスケットボールの楽しさや面白さを体験できる機会とする。
- 2 主 催 一般社団法人鳥取県バスケットボール協会
- 3 主 管 一般社団法人鳥取県バスケットボール協会 U12 部会
- 4 期 日 令和6年10月13日(日)
- 5 会 場 あやめ池スポーツセンター
- 6 競技方法 交歓試合(リーグ戦) 午前 男子 午後 女子 (混合も可) ※別紙競技規則を参照
 - ① ベンチメンバーは6人まで(6人以下も可)
 - ② 競技時間は4分とし、同点でも延長戦は行わない
 - ③ タイムアウトは30秒とし、1回とることができる
 - ④ 選手交代は、タイムアウト時または、攻守が入れ替わる際に行う
 - ⑤ フィールドゴール2点、フリースローを通過したら1点とする
 - ⑥ 3秒、24秒は適用しない
 - ⑦ オフェンスチームが積極的に得点をねらわない場合、審判は残り5秒をカウントし警告する
 - ⑧ スタートラインからは、パスでもドリブルでも可
 - ⑨ ヘルドボールは、全てディフェンス側のボールから再開とする
- 7 試合球 ミニバス5号球(ソフトボール使用の際は主催者で準備する)
- 8 参加資格 小学校3年生以下
- 9 参加料 無料
- 10 申込方法 大会担当者へメールを送り、返信された申込みフォームに記入しエントリーする
- 11 申込先 鳥取県バスケットボール協会 U12部会 キッズサポートリーダー 高橋 真一
メールアドレス m1kan90@yahoo.co.jp
- 12 申込締切 令和6年10月2日(水)
- 13 組合せ 主催者にて行い、申込責任者に連絡する
- 14 その他 (1)スポーツ傷害保険に加入しておくこと
(2)服装はチームで統一する(ビブス可)、シューズは体育館用とする
(3)審判は主催者で手配する(参加チームにも協力をお願いする)
- 15 各地区担当 東部地区 田中 博昭 鳥取県バスケットボール協会強化育成担当
中部地区 田村 明子 鳥取県バスケットボール協会 U12部会 キッズサポートリーダー
西部地区 高橋 真一 鳥取県バスケットボール協会 U12部会 キッズサポートリーダー

【問い合わせ先】 中部地区 田村 明子 携帯番号 090-3179-9921

【キッズ3×3フェスティバル 競技規則】

ゲーム開始、終了時

- ・フリースローラインを挟んで向かい合い、出場選手3人が開始時は礼、終了後は正面の選手と握手をする。
(感染症対策として、握手などは一部省略する場合がある。)
- ・ジャンケンに勝ったチームが開始時にオフェンスチームとなるかを選択する。(後半は逆)

コートとボール

- ・コートはサイズが横15m、縦11m。ただし、ゴールはミニバスケットボール競技用(高さ2.6m)を1基、ボールは5号球とする。(ソフトボール使用の際は主催者で準備する)
- ・フリースローラインは、規定ラインより50cmリングへ近づける。
- ・体育館の規格などにより、上記と異なる場合は、主催者と運営スタッフで協議を行い実施する。

登録選手

- ・6名までとする。全員出場することとする。

審判

- ・1名または2名。※1名で行うときは、トレイルポジションから判定する。

テーブルオフィシャル

- ・2名。大会事務局から指定されたチームまたは大人が担当する。

得点

- ・フィールドゴールはすべて2点とする。フラフープリングを設けた場合、フラフープを通過したら1点とする。
- ・フリースローは1点とする。

競技時間

- ・4分間を1回
- ・ゲーム終了時に得点の多いチームの勝利とする。
- ・同点の場合は引き分けとし、延長戦は行わない。

ショットクロック

- ・なし。ただし、オフェンスチームが積極的に得点を狙わない場合、審判は残り5秒をカウントし警告する。

タイムアウト

- ・1回とることができる。

選手交代

- ・タイムアウトの時、または攻守が入れ替わる時。

ショット時のファウル

- ①シュートが不成功の場合：1本のフリースローを与える。
- ②シュートが成功の場合：2点はカウントとなり、さらに1本のフリースローを与える。

個人ファウルと退場

- なし

チームファウルの制限

- ・6回目までは、チームファウルの罰則はなし。
- ・7回目以降は、相手チームに2本のフリースローを与える。

フィールドゴールが成功したあとの攻撃権

- ・ディフェンスのチームにポゼッションが移る。
- ・バスケットの真下からボールをドリブルまたはパスでアーク(3ポイントライン)の外まで運ばなければならない。

ディフェンスのチームがリバウンドをコントロールまたはスティールした場合

- ・ボールをドリブルまたはパスでアーク(3ポイントライン)の外まで運ばなければならない。

ジャンプボールシチュエーション後の再開

- ・ディフェンスのチームにポゼッションが移り、トップからチェックボールで再開する。
(チェックボール：3ポイントラインの外側の頂点付近で、ディフェンス側がオフェンス側にボールをパスないしトスする行為)

